

歴史探訪

クラブ

其の 96

History Inquiry Club



文化振興課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

発見 新しい縄文時代の遺跡

石神町の石神交差点南の高台にある「平野貝塚」は、昔から貝塚であることが知られています。大正時代から、渥美半島で最も大きな貝塚といわれ、

貝塚周辺からは縄文時代の石器や、弥生時代の土器が採集されてきました。

平成20年12月、下水道工事に伴い発掘調査が行われ、貝層下の黒い土の層か



▲石器と土器を発見

古墳時代の土器や鎌倉・戦国・江戸時代の茶わんなどが混ざって出土していますので、縄文時代の貝塚であることは証明できません。名称は「平野遺跡」としたほうが誤



▲約5500年前の土器

ら、縄文時代前期の石器や土器が出土しました。土器の文様から、平野貝塚は約5000～5500年前（縄文時代前期後半）の遺跡で、近畿・関東地方でも見られる文様もあったことから、その地方との交流があったことが分かりました。

しかし、貝層からは、縄文・弥生・

解を招かないかもしれませんが、海に面していることと、広い範囲で縄文時代の遺物が見つかることから、貝塚が築かれていた可能性があまりあります。

石神交差点付近には、ほかにも縄文時代中期の北屋敷貝塚があります。この貝塚は、標高3mほどの低地にあります。平野貝塚は標高14・5mほどの台地にあります。同じ縄文時代で、近くの貝塚であるにもかかわらず、なぜ平野の縄文人は高台に住んだのでしょうか。



▲平野貝塚の位置(点線で囲んだ部分)

平野の縄文人が住み着いた縄文時代前期は、1万5000年前から始まった温暖化のピークで、氷が溶けて現在より海面が数m上昇していました。年々上昇してくる海面に、恐怖を感じた人々は、高いところに生活の場を構えたのかもしれませんが。一方、北屋敷に暮らし始めた縄文時代中期には、海面や気温も戻り安定したため、低地に移動したと考えられます。

今回の発掘調査では、遺跡が広い範囲にわたりよく残されていたことと、吉胡貝塚や伊川津貝塚、保美貝塚よりも、さらに古い時代の遺跡が存在したという大きな発見がありました。泉校区ばかりでなく、田原市の歴史を塗り替える大きな成果でした。

(増山)

今月の「表紙」

▼例年より一週間以上も早く開花したカワヅザクネームプレートが取り付けられ、地元の方々により大切に育てられています。陽気に誘われて、桜並木を散歩する人は皆笑顔。沿道を行き交う人の心にも、温かな春の便りを届けてくれたようです。(O)

【表紙の写真】免々田川沿いのカワヅザクラ(福江町)